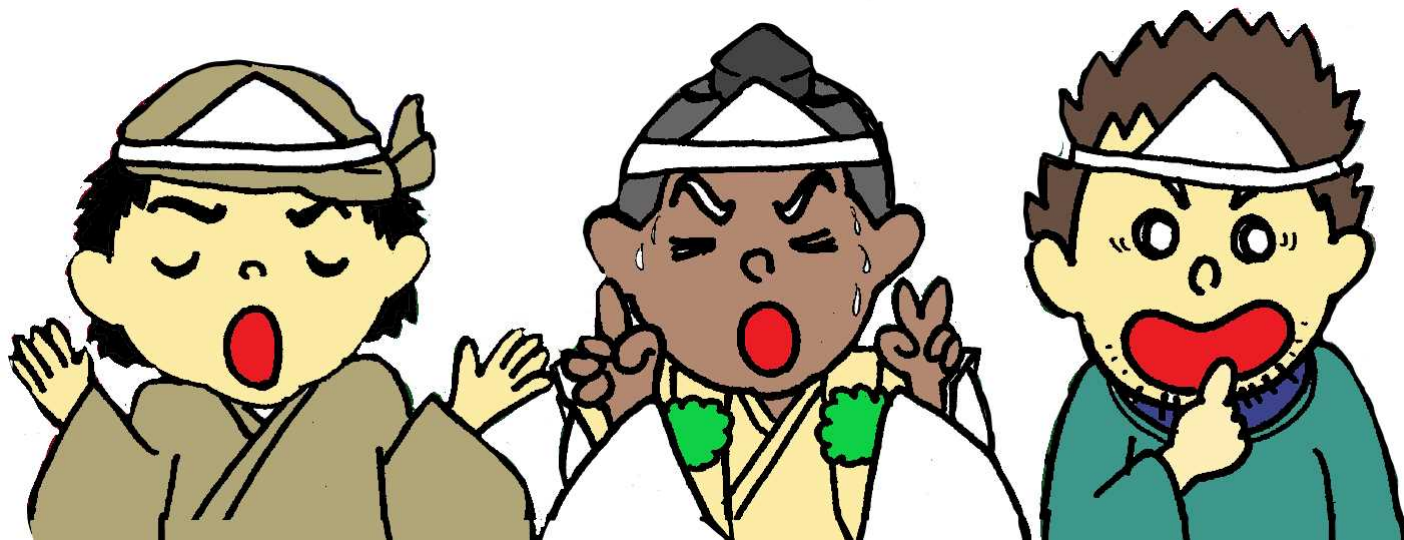



つながるの昔っこ (昔話) ⑩

モツケの先祖

(津軽弁Ver.)



国土交通省 東北地方整備局
岩木川ダム統合管理事務所
イラスト：やざわ ゆな
カラーリング：つしま けいこ



昔、鍛冶屋ど山伏ど医者ど居であったど。この三人せ、少一ズロスケだ男達で、あんまり良（い）くない事も時々してらばたて、どしたもんだが気合って、なもかも仲良（い）い親友（けやぐ）であったど。

誰かが少し銭こ稼げば、三人で集（あず）ばて飲んでおもしろおがしく暮らしらど。

ある日の事だ。鍛冶屋ア頼まれていた鍬（くわ）十丁を仕上げて、山伏ア祭りのご祈祷あって、医者ア金持（おおやげ）の娘の病気ばなおしたどごでせ、それぞれ懐コあったげぐなつたどごで、一つ豪遊すべえず事になつたど。

三人のケヤグラ、茶屋さ上がって、綺麗がだだあね様達も呼ばて、飲めや歌えの大騒ぎしてら
きや、鍛冶屋『おい、これがら船遊びすべし。船出して、船の上で日ば眺めて一杯やるべし』てし
たど。二人共『それあいい、それあいい』てして、三人は船を借りて船さ酒だの肴だの積み込ん
で沖さでだど。





日が皓皓と照ってる晩でせ、なもかもいい晩であたばて、この三人、船の上で踊ったり騒いだりしているうちに、船アどっとかすがってて転覆したずおんな。

ベロベロど酔っ払ってら三人だもの。助かるわけねえべえ。三人ともぶくぶくと沈んで行ってよ死んだど。

さて、この三人、死んでからそろって
閻魔様のどごさ来たど。

閻魔大王は赤鬼青鬼とば従えで、ジ
ロツと前さ並んでいる来たばかりの死
人の罪とば一人一人糾（ただ）して
あつたど。



鍛冶屋の番コ来たど。閻魔大王『鍛冶屋、お前（め）、何もハガネ入れねえ鎌だの鍬だのば高く売って、百姓ばだまして苦しめだ。お前は地獄行きだ』ってしたど。

鍛冶屋『閻魔様、閻魔様、それは何かの間違いでございます。おらは百姓達さずいぶんつぐしました』 閻魔様『うんにや、ちゃんとこの閻魔帳についで。この帳面さはお前だじの生前の行いの善し悪しがちゃんと書いてあるんだぞ』って、鬼達さ『さあ、針の山さ追（ぼ）ってやれ』てしたど。

『次、山伏。お前は百姓が汗水たらして作った米を只で貰って歩いて、それを町さ行って売って、その金で酒ばまぐらって遊んでばり歩いた。山伏にはあるまじき所業だ。けしからん奴だ』

山伏『私は百姓のために、ずんぶご祈祷をしてやりました。売った米で酒呑んだのはたった一、二回でございます。』

『んにや、それア嘘だ。ちゃんと閻魔帳さついで。閻魔の前で嘘をつぐとは太い奴だ。おい赤鬼、これも地獄』

『次、医者』

『私は病気直して、ずんぶと人ば助けてやりました』

『したばって、お前、女（おなご）ばだまして子供流したりしたべ。生まれでくる生命（いのち）ば奪うのは大罪だ。さあ、山さ追（ぼ）ってやれ』てしたど。





鬼共ア鉄の棒ばぶんぶど振り回して、三人とば針の山の方さ追いたでだど。針の山の手前さ大(で)ったただお堂あって、地獄の針の山さ登らされる罪人達アはここさ詰めらえで、順番ば待たされるんだど。

ここで、順番待ってるうちに、それぞれの者達ア、魂コななあってよ、飛んで帰って、家の者達や生前親しくしてら人達の所さ行って、最後のお別ればしてくるんだど。お前(め)だちも死んだ人の魂コ来たの感じたことあるべえ。戸鳴らしたり、鍋釜の音たでだり、夢の中さ出はってきたりする、あれだおん。



さて、鍛冶屋も、家さ
飛んで帰って、大急ぎで
鉄のわらじ、三足作って
戻ってきたど。
山伏も戻って、ご祈祷の
時に使う護符ば持ってき
たど。護符ってすの、
不思議だ力ば持ったお守
りの事だ。医者も戻って、
くだし薬をもってきたど。

さあ、この三人が針の山に登らされる番コ来た。鍛冶屋、鉄のわらじ履いで、二人さも渡したど。
三人共、鉄のわらじを履いだどごで、つけらっとして針の山ば越えだど。
山のむごうで待っら鬼共（おにんど）、それば見でどってんして閻魔様さ報告に行っただど。



閻魔様も驚いて、
『へば、あの三人は釜ゆでにしてしまえ』てした。
鬼共ア（おにんど）、大（で）ったらだ釜さ、湯、
ぐらぐらど沸がして、三人ば引っ張ってきて、そ
の中さ入れて蓋したど。



たんげたって『もう煮えだびょん』てして、蓋ば取って見だきや、三人ともつけらっとして湯さ入ってあたど。山伏ア火渡の術だの、釜湯かぶりの術などおべでらもんだとごで、護符ばを握って呪文を唱えでらきや、なんも煮えねであったんだど。『針の山さ登って汗コかいだどごで、湯コさ入ってさっぱどしたじやた』てしたどごで、鬼共アどってんして、又、閻魔様さ知かへに行っただど。



二度もしくじった閻魔大王、かんかんに怒ってせ、三人ば引っ張て来させで、今度（こんだ）、自分で次々に三人ば呑み込んでしまったんだど。

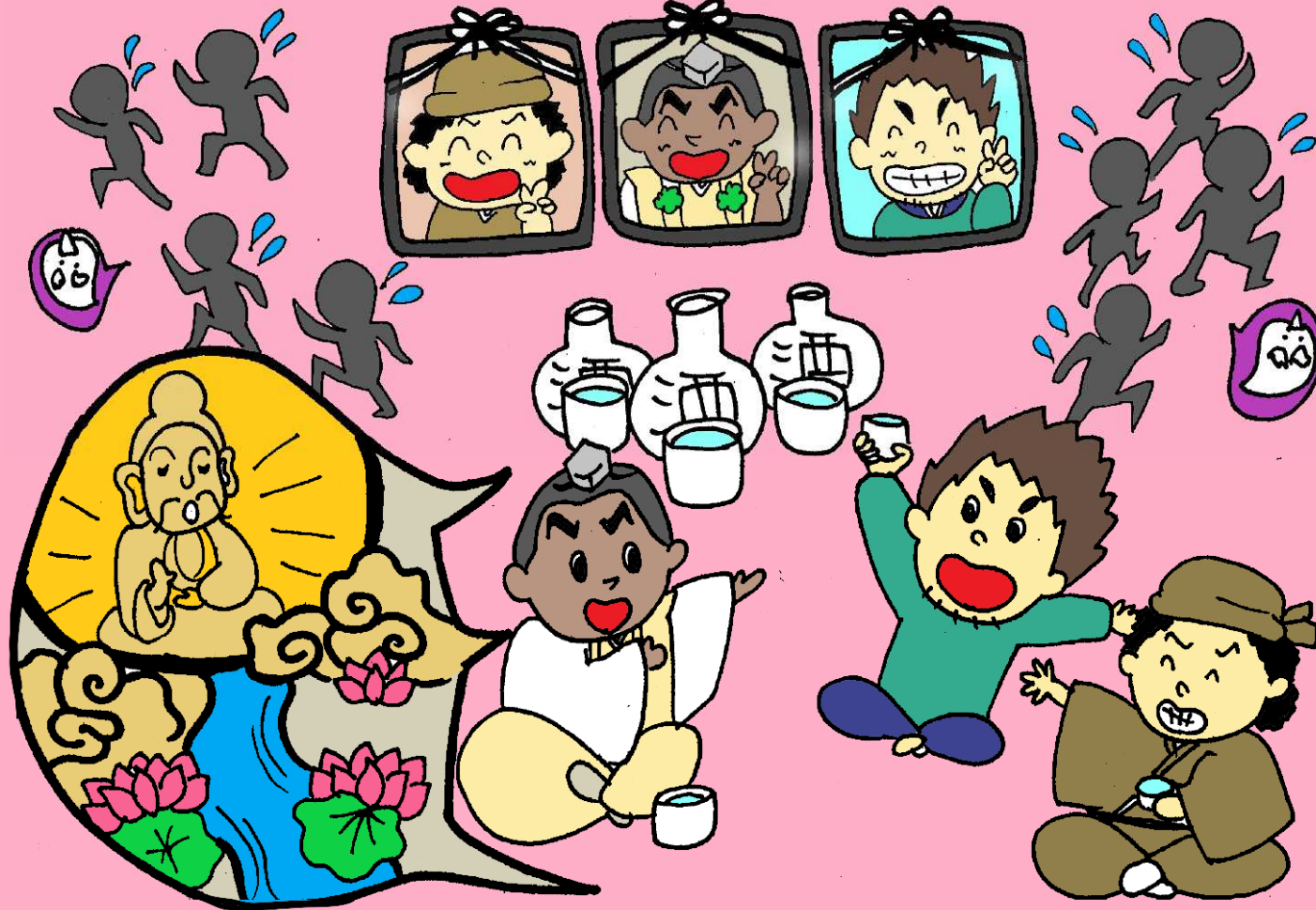


そしたきゃ、、医者、今度（こんだ）
自分の番だとして、持ってきたくだし薬
ば閻魔様の腹の中さまいだんだど。
閻魔様、腹病（や）んで、病んで、とう
とう三人ば尻（けつ）の穴がら、ぼんぼ
と下してしまたど。



出はてきた三人ばにらみつけた
閻魔様、『こした奴共(ど)ア
地獄さ置がれね。とつとど追
(ぼ)ってまれ』てしたとごで、
死んだ三人ア 又、この世さ戻っ
てきたんだとせえ。

この世さ戻って来てみだきや、みんな集（あづ）ばって三人の弔いばしてあったど。
そごさ死んだ三人、べろっと戻って来たどごで、んにやんにや、集（あず）ばってた人達アどって
んたまげで、『幽霊だ、幽霊だ』って、大騒ぎで逃げで行ってまったど。三人のズロスケ共ア大笑
いして、『あらあ、こごさ、酒肴の仕度コでぎでらじゃ。さあ、一杯やるべし』って、酒盛りば
始めだど。『おもしろくてあったなあ。閻魔のあのつらアよ』『もう一回死んでみるが』『んだな
あ、今度（こんだ）極楽さに行ってみるべし。観音様のつらっこを拝んで見てなあア』って好き勝
手だごとばかり喋ってらばって、さあ、地獄に行きそびれた奴達ア極楽さ行げるもんだがさ。



昔から、津軽のモツケってすべ。

昔からこうしたとんでもねえモツケ達、津軽のあぢこぢさ居だんだびよん。最近ではモツケ達
も小ぢんまりと行儀コ良くなって、ちょっと淋しいでばし、の。とっちはれ。